

イベントレポート 『2012 K耐久東海シリーズ 第1戦』

開催日 2012年3月18日(日)

9:30 決勝スタート 12:25 チェッカー

天候 曇り後雨

最高気温 13.1℃(11時)

場所 スパ西浦モーターパーク

参加台数 30台

今年で5シーズン目を迎えるK耐久東海シリーズの開幕戦が3月18日に愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

前日は本格的な雨であったが、この日は降水確率10%で天候は曇りの予報。予選開始時にはコース全体はウエット状態であったが、決勝が始めると徐々に乾いて行くことが予想された。

しかし決勝が始まっても気温が低いために思ったほど路面は乾いて来ない。そんな中、決勝開始から1時間が経つ頃には小雨が降り始め、低温も相まって非常に難しいコンディションの中でのレースとなった。

さて、今年から義務ピットインの時間管理が、タイムカードから計時上のラップタイムでの管理に変更となった。このためピットアウトのタイミングは各チームが計算して指示しなければならず、チームの戦略が勝敗を左右する可能性が高くなった。さまざまな面において難しいレースとなった開幕戦。このレースを制したのはどのチームか。



■ KNNクラス(軽NAのノーマルクラス)

昨シーズンより設けられたこのクラス。LSDの装着が禁止されるなど改造範囲がかなり絞られ、ローコストでマシンを製作出来るのが魅力である。

昨年前半戦は#100「HACもらいものビート」が圧倒的な強さを見せたが、最終戦では新規規格軽自動車の#39「ステージワンレーシングアルトV」が初優勝を飾り、新規規格軽のセッティングが進んで来たことを感じさせた。

今シーズンは、昨年のKTOクラスシリーズ2位のチームガレージシヤマがこのクラスにトゥデイを持ち込み、旧規格車が2台、新規規格車が4台のエントリーとなった。

2012年、幸先よいスタートを切れるのはどのチームか。



■ 予選

スリッピーな路面状況の中予選1番手のタイムを出したのは、今シーズンからKNNクラスにエントリーの#16「ガレージシヤマDXLトゥデイ」。総合でも11位となる1'17.712で、見事にクラス1位のポジションを獲得する。

2番手は昨シーズンクラス5位の#35「ZOURAレーシングアルト」でタイムは1'20.180。シーズンオフにセッティングを進化させた予感が。

3位には1'20.180で昨年度のシリーズチャンプ#100「HACもらいものビート」が、4位には1'21.122で昨年度シリーズ2位の#39「ステージワンレーシングアルトV」が続き、好位置をキープする。

5位の#383「カワセミブルーミニカ」は1'23.791のタイムで、上位チームを視野に捉えたポジションに付ける。

#444「team YKSR ALTO」は予選前のフリー走行時にバンカーストップして予選タイムを残せず、ピットスタートとなる。

■序盤

スタートから1時間、予選2位からスタートの#35「ZOURAレーシングアルト」が35Lapで1位にジャンプアップ。

一方、予選1番手スタートの#16「ガレージイシヤマDXLトゥデイ」は34LAPで2位に順位を落とす。

3位には#100「HACもらいものビート」が31LAPで続く。

4位の#39「ステージワンレーシングアルトV」は29LAP、5位の#383「カワセミブルーミニカ」は27LAPと、トップから少し差を付けられてしまう。

ピットスタートの#444「team YKSR ALTO」は9周を走行したものの、リタイヤとなってしまふ。

■終盤

1時間半が経過したころ、2位に付けていた#16「ガレージイシヤマDXLトゥデイ」が痛恨のコースアウト。これにより大きく順位を落としてしまう。

2時間が経過すると#100「HACもらいものビート」が62LAPでトップに立って来る。これを同一ラップで#35「ZOURAレーシングアルト」が追い掛ける展開となる。

3位には#39「ステージワンレーシングアルトV」が58LAPで続き、4位にはコースアウトを喫した#16「ガレージイシヤマDXLトゥデイ」が57LAPで続く。

5位の#383「カワセミブルーミニカ」も55LAPに付け、ラストで表彰台への望みをつなぐ。

■最終結果

トップでチェッカーを受けたのは、予選3番手スタートながら見事な追い上げを見せた#100「HACもらいものビート」であった。80LAPを走行し、レベルアップしてきた新規規格軽車両たちを見事にねじ伏せた。

2位には終始トップ争いに加わり続けた#35「ZOURAレーシングアルト」が79LAPで続いた。昨年度チャンピオンをあと一歩のところまで追い詰めた走りは、今年台風の目となることを予感させた。

3位は2位と同一の79LAPを走行した#39「ステージワンレーシングアルトV」が入った。序盤なかなかポジションを上げられなかったが、最終的にトップに迫って来るあたりに、昨シーズン2位の實力を感じさせた。

続く4位は76LAP、5位は75LAPと接戦となったが、この接戦を制したのは#383「カワセミブルーミニカ」であった。惜しくも5位に終わった#16「ガレージイシヤマDXLトゥデイ」は、予選1位のアドバンテージを活かせず、悔しいデビュー戦となった。

今回の結果を見る限り、各チームの力は非常に拮抗していると思われる。第2戦でも混戦となることは必至であろう。





■ KNCクラス(軽NAのクローズドクラス)

昨シーズン圧倒的な強さでシリーズチャンプを獲得した#25「アカミネコマル2トゥデイ」が今年もこのクラスにエントリー。

昨年途中からこのクラスにチェンジしてきた#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」も徐々に速さを増して来ており、新規格車に与えられるハンディーを活用して上位に迫りたいところ。

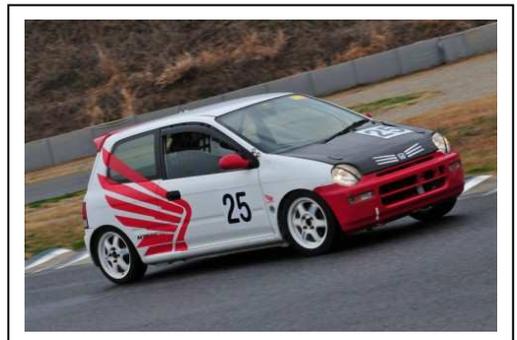
また昨年スポット参戦ながらこのクラスで優勝している#60「サーキットのじいSPトゥデイ」もエントリーし、三つ巴の様相である。

■ 予選

予選 1 番手のタイムを記録したのは#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」。総合でも 10 番手となる 1'17.282 で絶好のポジションに付ける。

2 位は#25「アカミネコマル2トゥデイ」が入るが、タイムは 1'22.583 とウエット路面にやや苦戦か。

3 番手の#60「サーキットのじいSPトゥデイ」は予選でタイムを残せず、最後尾スタートとなる。



■序盤

絶好のポジションを得た#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」であったが、決勝開始から9周を走行したところでスローダウン。マシントラブルによりリタイヤとなってしまふ。

これによりKNCクラスは2台によるマッチレースとなる。しかし1時間が経過する前に#25「アカミネコマル2トゥデイ」が義務ピットイン時間不足で1分のペナルティを受ける。しかし直後に#60「サーキットのじいSPトゥデイ」も同じミスを犯し優位に立つことが出来ない。1時間経過時点では#25「アカミネコマル2トゥデイ」が31LAPで1位に立つが、2位の#60「サーキットのじいSPトゥデイ」も同ーラップに付ける展開となる。



■終盤

2時間が経過したところでは#60「サーキットのじいSPトゥデイ」が61LAPでトップに立つ。これを2周遅れで#25「アカミネコマル2トゥデイ」が追いかけて、残り1時間に望みをつなぐ。

しかし、この後の義務ピットインで#25「アカミネコマル2トゥデイ」は2回目の義務ピット時間不足ペナルティを受けてしまい万事休す。



■最終結果

開幕戦を制したのは76LAPを走行した#60「サーキットのじいSPトゥデイ」であった。昨年、スポット参加ながら優勝した実力は今年も健在である。

2位には#25「アカミネコマル2トゥデイ」が74LAPで入った。2度の義務ピット時間不足ペナルティが、大きく響いた形となった。#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」はリタイヤとなってしまったが、予選では速さの片鱗を見せ、第2戦以降に期待をもたせた。このクラスも、第2戦以降混戦となりそうな予感である。



■KNOクラス(軽NAのオープンクラス)

昨年度シリーズチャンピオンの#50「ベストライトウデイ」は、今シーズンは活動休止。

そんな中、昨シーズン 2 位の#99「チームオーシャンズトウデイ」、3 位の#880「タカタCCMCTウデイ」、4 位の#23「チームミニトウデイ」、5 位の#296「小山林業KR-オウデイ」は揃ってエントリー。

これらのチームの昨年のシーズンポイントは、2 位が 55 点、3 位と 4 位が 54 点と、実力が非常に拮抗している。また 5 位の#296 は 41 点ながら、最終戦で優勝するなど力を持っている。

これに、昨年のKNCクラ 4 位の#38「デモリッションエグゼトウデイ」と、一昨年のKNCクラス 3 位の#3「マケラーレンMBS・Uトウデイ」が加わり、非常にレベルの高いレース展開が予想される。

この接戦を制するのはどのチームとなるのか。

■予選

予選 1 位となったのは#23「チームミニトウデイ」。タイムは総合でも 2 番手となる 1'14.520 をマークする。

2 位には#296「小山林業KR-オウデイ」が入ってくる。タイムは 1'15.388 で総合 5 番手のポジションからのスタート。

3 位には昨年のKNCクラスからクラスチェンジしてきた#38「デモリッションエグゼトウデイ」が 1'18.113 で入ってくる。

以下、4 位に 1' 18.636 で#99「チームオーシャンズトウデイ」、5 位に 1'22.931 で#3「マケラーレンMBS・Uトウデイ」が続く。

#880「タカタCCMCTウデイ」はマシントラブルでタイムが残せず、ピットスタートとなる。

■序盤

1 時間経過時点での 1 位は、予選 1 番手からスタートした#23「チームミニトウデイ」で 36 周をLAPする。

2 位から 5 位までは団子状態となる。2 位の#3「マケラーレンMBS・Uトウデイ」と 3 位の#38「デモリッションエグゼトウデイ」はともに 33LAP、4 位の#296「小山林業KR-オウデイ」と 5 位の#99「チームオーシャンズトウデイ」はともに 32LAP という接近戦。

ピットスタートの#880「タカタCCMCTウデイ」は 30LAP で 6 位となる。

■終盤

2 時間が経過したところでは、#23「チームミニトウデイ」が 65LAP でなおも 1 位の座をキープする。

2 番手の#99「チームオーシャンズトウデイ」と 3 番手の#38「デモリッションエグゼトウデイ」はともに 64LAP を周回し、表彰台圏内をキープ。しかし 4 位の#296「小山林業KR-オウデイ」は 63LAP、5 位の#3「マケラーレンMBS・Uトウデイ」は 62LAP とすぐ背後に迫っている。

6 位の#880「タカタCCMCTウデイ」はラップ数こそ 61 周であるが、既に 3 回の義務ピットインを終えており、最後に一気にジャンプアップする可能性を秘めている。



■最終結果

KNOクラス、トップでチェッカーを受けたのは#296「小山林業KR-Oトウデイ」であった。85LAPを走り切り、総合でも1位になるという堂々たる結果であった。

2位に入ったのは、ピットスタートから地道に順位を上げた#880「タカタCCMトウデイ」で82周をラップした。2時間時点でのコメントにもあった通り、早目の義務ピットイン消化で、終盤一気に順位を上げた。

3位の#23「チームミニトウデイ」は2位から遅れることわずか2.6秒。終盤での義務ピット時間不足ペナルティが大きく響いた。

4位の#99「チームオーシャンズトウデイ」も2位と同一の82LAPをマークしたが、惜しくも表彰台には届かなかった。

5位の#38「デモリッションエグゼトウデイ」は81LAP、6位の#3「マケラーレンMBS・Uトウデイ」は80LAPと、KNCクラスからのクラスチェンジ組はともに表彰台にはあと一歩届かなかった。しかしこれらのチームはレース経験は豊富であるので、マシンの熟成が進めば表彰台争いに絡んでくるであろう。

開幕戦から非常にレベルの高い争いを見せてくれたKNOクラス。シリーズを通じて僅差の戦いが続きそうである。



■ KTCクラス(軽ターボのクローズドクラス)

今年は開幕戦から9台のエントリーとなり、いきなりの激戦区となったKTCクラス。このクラス、昨年は表彰台の顔ぶれが毎戦変わるほど、各チームの力が拮抗していた。

開幕戦では、昨年度シリーズ1位の#392「Zammersヴィイヴィオ」、2位の#112「白須賀会カプチーノ」、3位の#46「カーエナジー・ワークスアルト」、4位の#21「ZEST平成十三路セルボ」、5位の#95「DXLマックイーンカプチーノ」が揃ってエントリー。

これにEA21Rカプチーノや、コペンといった目新しい車種が戦いに加わり、さらに混沌としそうな予感である。

■ 予選

ウエットかつスリッピーな路面状況となった予選。一番時計を叩き出したのは#46「カーエナジー・ワークスアルト」であった。タイムは1'13.495をマークして、総合でも1位のポジションを獲得した。

2位には今年より2台体制となったチームナルミファクトリーの#7「ナルミファクトリーアルト2号車」が1'16.821で入った。新たに作製したマシンでいきなりの2位を獲得し、台風の目となるか。

3位には#95「DXLマックイーンカプチーノ」が1'17.817で入る。FR車に不利ともいえる路面で3番手を獲得し、テクニシャンぶりをアピールする。

4位に入った#93「マリンダイビングアルト」も今年から新規参加のチーム。タイムは1'18.036で決勝でも期待がかかる。

以下5位には#21「ZEST平成十三路セルボ」が1'19.488で、6位には#112「白須賀会カプチーノ」が1'20.202で続いた。

■ 序盤

決勝スタートから1時間が経過した時点では、ポールスタートの#46「カーエナジー・ワークスアルト」が38LAPでトップの座をキープする。

2位には予選7位から猛チャージを見せた#392「Zammersヴィイヴィオ」が上がってくる。周回数は36LAPを走行。

3位の#93「マリンダイビングアルト」も2位と同一周回に付け、終盤に向けて絶好のポジションをキープ。

4位の#112「白須賀会カプチーノ」も35LAPと、表彰台圏内を捉えた位置に付ける。

5位と6位は32LAPで上位集団からやや周回が開く。5位に#95「DXLマックイーンカプチーノ」、6位に#330「DXLミヤマカプチーノ」と、カプチーノが連続する。

予選2番手さった#7「ナルミファクトリーアルト2号車」は31LAPの7位に後退する。

■ 終盤

2時間が経過すると、昨年度チャンピオンの#392「Zammersヴィイヴィオ」が意地を見せ、65LAPでトップに躍り出る。

しかし2位の#46「カーエナジー・ワークスアルト」も同一ラップに付け、ラスト1時間での逆転に望みをつなぐ。

さらに3位の#330「DXLミヤマカプチーノ」、4位の#112「白須賀会カプチーノ」、5位の#95「DXLマックイーンカプチーノ」までが64LAPに付け、5チームで表彰台争いをすることに。



以下 6 位の#93「マリンダイビングアルト」は 61LAP、7 位の #7「ナルミファクトリーアルト2号車」は 58LAP で、この 2 チームは 6 位入賞懸けてのラスト 1 時間となる。

■最終結果

2 時間経過時点で接近戦を繰り広げていた 5 チームは、そのまま最後まで僅差での争いを続けた。

この大接戦を制しトップチェッカーを受けたのは、#392「Zammersヴィヴィオ」であった。82LAP を走行し、昨年の開幕戦以来の優勝を飾った。

惜しくも 2 位となったのは#46「カーエナジー・ワークスアルト」。1 位とのタイム差は 14 秒で、あと一歩及ばなかった。

3 位には#95「DXLマックイーンカプチーノ」が入ったが、こちらも 2 位とのタイム差はわずかに 8 秒と、やや悔しい表彰台か。

4 位には 81LAP で#330「DXLミヤマカプチーノ」が入った。初参加かつウエット路面ということを考えると、次戦以降には表彰台に絡んで来るかもしれない。

5 位の#112「白須賀会カプチーノ」も 81LAP をマークしたが、4 位には約 20 秒届かなかった。

入賞圏内となる 6 位には、初参加対決を制した#7「ナルミファクトリーアルト2号車」で 79LAP で入った。

#93「マリンダイビングアルト」は前半戦のマーヅンを活かしきれず 77LAP の 7 位でフィニッシュとなった。

昨年度は表彰台の顔ぶれが毎回変わったKTCクラス。今年は 6 位入賞の顔ぶれが毎回変わるような激戦となりそうである。



■KTOクラス(軽ターボのオープンクラス)

昨年度チャンピオンの#55「アビリティーガレージワークス」は開幕に準備が間に合わず欠場。

しかし今回エントリーした#14「ガレージイシヤマアルトバン」、#666「ヴィスコンティIMWアルト」、#210「ZESTルブロスDXLアルト」、#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」、#8「DXLグローバルカプチーノ」の5チームは、全て昨年に表彰台を経験している実績あるチーム。また残る1台#777「ナルミファクトリーアルト1号車」も昨年はトラブル続きで結果を残せなかったが、一昨年までの実績を見れば上位に来る実力を持っている。

今年はどうような勢力分布となるのであろうか。



■予選

予選1位となるタイムをマークしたのは1'14.883をマークした、#210「ZESTルブロスDXLアルト」であった。昨シーズンは4位に終わったものの、シーズンオフに戦闘力を上げてきたか。

2番手にはトップから遅れること僅か0.1秒で、#14「ガレージイシヤマアルトバン」が入る。昨年の開幕3連勝並みのスタートを今年も切れるか。

3位には新規格軽で孤軍奮闘の#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」が1'15.702で入る。昨年の最高位である3位の更新に向けて好発進する。

4位には#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が1'16.854で続く。昨年の不運の連鎖を断ち切ることが出来るか。

5位は昨年スポット参加で優勝を飾った、#8「DXLグローバルカプチーノ」が入るし、タイムは1'17.203をマーク。

6位には1'19.814で#666「ヴィスコンティIMWアルト」が続く。



■序盤

1時間経過時点では、#210「ZESTルブロスDXLアルト」がなおも1位の座を守り続ける。しかし同一ラップの34周で、#8「DXLグローバルカプチーノ」がトップをピタリとマークしている。

さらに3位から6位までの4チームが33周で横並びとなり、表彰台はおろか、優勝争いの行方すら見えない混戦状態となる。

オーダーは、#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」、#14「ガレージイシヤマアルトバン」、#666「ヴィスコンティIMWアルト」、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」といった順。



■終盤

2時間が経過すると、67LAPで#8「DXLグローバルカプチーノ」が1位に浮上してくる。これを同一ラップの#666「ヴィスコンティIMWアルト」が追い掛ける。

予選1番手スタートの#210「ZESTルブロスDXLアルト」は65LAPで3位まで順位を下げる。

これを1周差で、4位の#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」、5位の#14「ガレージイシヤマアルトバン」、6位の#777「ナルミファクトリーアルト1号車」の3チームが追い上げ、ラスト1時間に逆転の望みをつなく。



■最終結果

ラスト 1 時間で順位を上げた、#777「ナルミファクトリーアルト 1 号車」が 85LAP でトップチェッカーを受け、これに同一周回の#666「ヴィスコンティIMWアルト」、84LAP の#8「DXLグローバルカップチーノ」が続いた。

がしかし、#777「ナルミファクトリーアルト 1 号車」はレース中盤にペナルティ提示を見落とすミスを犯したため、最終結果より 2 周減算のペナルティを受けることに。

この結果、2 位と 3 位が繰り上げられることになり、#666「ヴィスコンティIMWアルト」が悲願の初優勝を果たした。

また、つづく 2 位には#8「DXLグローバルカップチーノ」が入った。

2 周減算となった#777「ナルミファクトリーアルト 1 号車」は、最終的に 83LAP で 3 位となった。

続く、4 位の#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」と 5 位の#210「ZESTルブロスDXLアルト」も 83 周を走りきったが、惜しくも表彰台には届かなかった。

6 位の#14「ガレージシヤマアルトバン」は 81LAP でのゴールとなった。

今回惜しくも 3 位に終わった#777「ナルミファクトリーアルト 1 号車」であるが、その速さは他チームに大きなインパクトを与えた。

第 2 戦から参加予定の昨年度チャンピオン#55「アビリティーガレージワークス」を交え、TKOクラスはハイレベルな戦いが続きそうである。

